



# 大阪商業大学 FD ニュースレター

第16号

2016年 3月発行

## C O N T E N T S

### 平成 27 年度 公開授業

平成 27 年度 公開授業および意見交換会  
開催概要 (p.1)

公開授業を終えて (p.2~p.8)

総合経営学部 商学科 准教授 谷内正往  
経済学部 経済学科 講師 金坂成通  
経済学部 経済学科 講師 小林俊和  
総合経営学部 公共経営学科 准教授 明尾圭造  
経済学部 経済学科 助教 木戸盛年  
総合経営学部 経営学科 講師 小出輝章  
総合経営学部 経営学科 准教授 松田昌人

公開授業 意見交換会報告 (p.9~p.10)

### FD 活動報告

就業力育成支援プロジェクト報告会  
開催される (p.10)

第 25 回教育サロン in 関西 参加報告  
(p.11)

## <平成 27 年度 公開授業>

### 平成 27 年度 公開授業および意見交換会 開催概要



平成 27 年度の本学 FD 活動の 1 つとして、公開授業が下記の日程で開催された。授業科目・担当教員・教室については以下のとおりである。対象となる授業については、今年度新任の教員が担当する授業の他、授業内容や受講者数等を考慮して選出した。

### <公開授業実施日程・科目>

月 日	時限	科 目 名	担当教員名	教室
11 月 16 日 (月)	2 限	大阪の商業Ⅱ	谷内 正往	412
	4 限	公共政策	金坂 成通	624
	5 限	経営情報処理論/ 経営情報処理論Ⅱ	小林 俊和	情 1
11 月 18 日 (水)	2 限	近世大阪の学芸と文化/ 近世大阪の学芸と文化Ⅱ	明尾 圭造	411
11 月 19 日 (木)	2 限	心理学	木戸 盛年	422
	3 限	総合教養 C	小出 輝章	622
11 月 20 日 (金)	2 限	経営情報概論Ⅱ	松田 昌人	432

なお、各授業において FD 委員会より参観した教員にアンケート（興味深い点、参考になると思った点などを自由形式で記述）を実施した。

また、意見交換会を 12 月 2 日（水）16：30～17：30（於：本館 4 階会議室Ⅱ）に行った。



## 公開授業を終えて

総合経営学部 商学科 准教授 谷内正往  
(担当科目：大阪の商業Ⅱ)

### 「多人数を前に講義する難しさ」

私はこれまで 20 数年以上、大学はもとより塾や予備校、専門学校、カルチャーセンター等で教えてきました。ただし受講生は少人数でしたので、100 人、200 人を前に講義するのは昨年頃からのこととなります。正直、「難しいなあ」と感じています。受講の目的や、内容、求められる成果、プロジェクター等の機器操作など、これまでとは異なる環境だったからです。あたふたしたまま 1 年が過ぎたように思います。公開授業でその感が強くなりました。以下、自分が取り組んだこと、気づいたこと、今後の改善点を順に述べてまいります。



第 1 に、取り組んだことです。いろいろあるのですが、特に講義時間を三分割したことです。説明+板書だけでは 1 コマ 90 分もたない、と思ったからです。講義時間を大きく「説明」「板書&スライド」「ビデオ&演習」に三分割しました。ほぼ毎回その日のテーマに沿ったレジュメを配布して、説明して書き込みさせるようにしました。大事なことは別に板書しました。次いで、スライドを見たり、書画カメラで参考文献を紹介したりしました。最後に問題を出して演習（記述）させたり、ビデオを見せたりして、その日の講義内容の定着をはかりました。

第 2 に、気づいたことです。これも多々あるのですが、特に講義の目標（高得点、単位、教養）は何なのか、ということです。塾や予備校の場合は、試験の高得点、合格が目標となります。一方、大学の場合は「幅広い教養」を前提として、そこから受講生自身が自己実現に向けて具体的に目標設定していくのかなと考えました。そう考えると「難しいなあ」と冒頭の感想に至ったわけです。受講生の基礎学力、関心、目標等がバラバラだと感じたからです。特に大教室で 100 人、200 人規模になると、それが顕著になりました。具体的な講義の工夫以前の問題として悩むことしきりでした。カルチャーセンターのように「ああ、面白かった」という講義にすべきか悩みましたが、そうしませんでした。学びの本質は娯楽ではないからです。（学びのきっかけとしては重要なのですが。）

第 3 に、今後の改善点です。第 1 で述べた取り組みをもっと丁寧に、計画的に行ってまいります。具体的には、年度の初めに講義の詳細を作り込んでおくことです。初年度は大ざっぱに計画していたのですが、いざやってみると受講生の書くスピード、理解の度合い、演習プリント、小テストの採点、情報機器の操作など意外とテクニカルなことに時間がかかることがわかりました。それらをふまえて、受講生目線で 1 コマの「流れ」を組み立ててまいります。

次に、多人数の講義と少人数の講義を区別して、それぞれに合わせた対応をすることです。少人数の場合は、個々の理解度もわかりやすく、私の説明も伝わりやすいのですが、多人数の場合は、話し方（わかりやすい言葉、表現等）、見せ方（板書文字の大きさ、プロジェクター利用等）、理解の確認方法（問いかけ、演習プリント、簡易アンケート等）を工夫してまいります。

最後に、大教室で少しでもザワザワしていると「うるさい」と叱るのですが、意外と静かになるので調子に乗って叱ってしまいました。そもそも、静かに、関心をもって聴いてもらえるだけの講義が求められているのに、その大事なことを失念しておりました。期せずして自身の未熟さを再認識する機会となりました。この反省を次年度に生かしていきたいと思います。



2015年11月16日(月)の4限目に、公開授業を実施した。以下では、今回の授業で取り組んだことや、今後の改善点について述べていきたい。

科目は「公共政策」で、これは公共経営学科と経済学科の2年生から4年生が履修対象、履修登録者数は122名の授業である。内訳は、多い学年・学科から、公共の3年生51名、公共の4年生以上26名、経済の2年生20名、公共の2年生16名、その他である。

公開授業が行われた第8回目は「規範的判断」をテーマとし、公共政策のめざすべき価値とは何かを、公平、効率性、安全・安心、自由などの概念を説明しつつ考察するものであった。具体例の一つには、公共図書館を題材に、ベストセラー本を揃え、貸し出し数や利用者を増やすことが良いことかどうかといった今日的な話題を取り上げた。

この授業の構成は、大きく3パートに分けていて、それぞれのパートの解説後、授業の初めに配布している課題に取り組ませている。それによって、私が一方的に話すだけの授業となることを避け、理解を深めさせている。

その他に工夫している点は、毎回授業の初めに、希望する学生にマイクを渡し、テキストの導入部分を読んで頂いている。授業初めの2分程度だが、(講師でなく)仲間の学生がマイクで喋っていると、不思議と全体が静かになる。また、その際、授業への貢献として名前を控えるようにした。そうすると、本人の授業への集中度が増すことに加え、周りの友人たちも静かに聴くようになるから不思議である。これは回を重ねるごとに定着し、静粛になったので続けていきたい。

また、提出課題は、赤ペンをいれて翌週に返却している。私はこの課題の返却を、学生との間の「交換日記」であると捉え大切にしている。可能な限り丁寧に赤ペンを入れて返却することで、学生の満足度を高めることができ、授業への集中度が増したと考えている。

公開授業にご出席いただいた先生方からは、受講生の受講態度が良いことについてお褒めの言葉を頂いた。また、iPadをワイヤレスで使い、教室全体を巡回しながら、教室前面に掲示したスライドを操作・説明しつつ、学生視点でスライドに赤ペンを入れ、補足説明する授業スタイルについて、ご関心を頂いた。また、学生にとって身近なマンガ本の書影などもスライドで見せ、ビジュアルでイメージを膨らませるようにした点も、ご評価頂いた。

ただし、一回の学習における分量が多いこと、授業テンポが速いことが気になるとのご意見も頂戴した。これは私が授業内容について、伝えるべき箇所や概念を絞りきれいなためだと思う。この点は、今後も授業内容の精査を努力し、改善していきたい。

[謝辞]今回、たいへん貴重な機会を頂きましたこと、公開授業にご出席・コメントを頂いたFD委員会委員長の西嶋淳先生、孫飛舟先生、宍戸邦章先生、新宮潔先生、崔圭皓先生のほか、教職員の皆様に感謝申し上げます。

## はじめに-担当科目と授業の目的

公開授業では、科目名「経営情報処理論Ⅱ」を担当いたしました。総合経営学部経営学科主専攻・専門科目(情報分野)で、通年・3年次配当となります。また、コンピュータを利用する実習科目です。

この科目では、ビジネスの現場を想定して、データを用いて判断を行うことや予測を導き出すときの情報処理法の習得を授業の目的としています。たとえば、複数の立地条件からもっとも好ましい出店場所を選び出すにはどのような切り口があるのか。その手段と内容を解説し、エクセルを用いてデータを処理させながら、ビジネス統計を悉皆的に理解してもらえよう努めています。

## 授業の運営方法

参観いただきました諸先生からは、「学生間のPCスキルの差や数学的な学習到達度の違いからくる運営上の課題をどのように克服しているのか？」とのご質問を頂戴しました。勝手ながら、同じ悩みを共有したような気持ちになり、私なりにもっと工夫してみようという動機付けになりました。誠にありがとうございました。

当初の受講生の状況を概観しますと、エクセルの操作に不慣れな受講生が散見されたことや、進学前に学んだ数学の理解度にばらつきがありました。そのようなことから、授業3回分で1つの大きなテーマを理解させるような進め方にしました。

たとえば、1回目に「直線」の概念の確認・解説。2回目には、回帰直線の学習、3回目には回帰・重回帰分析と進みます。そうすると、1回目の授業は、中学校で学んだ数学の確認と、その範囲内の数学を活用したビジネス統計処理を学習する。2回目は、1回目の理解では解決できないような課題の提示と、その解決方法の学習。3回目は、ビジネスの現場を意識した利活用法を学ぶこととなります。

このような手順で授業を進行すると、PCスキルのレベルや数学の基礎知識にばらつきがあったとしても、「学習目標に到達できた！」と学生が実感し余裕をもたせられる授業が3回のうち1回以上あること。さらに、次に乗り越えなければいけないステップが3回のうちどの回にあるのかを知ることができます。

質問を受けたときには、どの段階で困っているのかを把握して、解説や副教材の提供を行うことができるようになりました。

## おわりに-今後の課題

実験的に、教育テレビの番組のようなテーマごとの解説ビデオ(8分程度のミニレクチャー)を自作し、欠席者や復習の必要な受講生向けに動画を提供しています。ミニレクチャーの効果的な導入については、今後の課題となりました。

最後になりましたが、授業を公開する機会を与えていただきましたFD委員会・委員の皆様、また、貴重な時間を参観やコメントの作成、意見交換等に割いていただきました諸先生方に、感謝申し上げます。ありがとうございました。



FD委員会の依頼を受け、2015年11月18日(水)2限目の授業「近世大阪の学芸と文化Ⅱ」で公開授業を実施(「商業史としての美術」)しました。まずは、お忙しい中、聴講していただいた先生方に御礼を申し上げます。



本授業は大阪探求コースのなかに位置づけられるもので各学部学科の履修生が並存し、履修者は171名(平成25年度)を数えます。常時出席しているのは100名前後ですが、当日は91名の出席者がありました。通年授業でもある本授業では、前期に大学の文教施設の利用方法を学ぶとともに、古文書や歴史資料の活用事例を学ぶことを心がけています。そして、後期には大阪画壇を取り上げ、書画とその周辺の人間関係を通して大阪文化の奥行きを深さを実感してもらえよう授業計画を立てています。

授業をする上で心がけていることは、単なる歴史や美術史の授業にならないように、今日的な問題意識からフィードバック出来るような教材を選定しています。

なかでも、近世大阪の文人(町人)社会を取り上げ、今まで経済史でしか取り上げられなかった大阪町人の文化意識の高さ(文人画の多様性)を具体的に見てもらうためビジュアルに興味を持ってもらえるようにパワーポイントを活用し、レジюмеで確認できるように教材を整えています。

しかし、知らない名前の列記や漢文など受講生にはまだまだ敷居が高く、いま少し背景理解の補助教材が必要であることを痛感しています。ただ、レジюмеでパワーポイントのすべてを網羅している場合はないことですが、自ら記入して完成させるレジюмеの場合、板書やパワーポイントの画面自体を写メに収める学生が少なからずいることには驚いています。私は注意してやめさせますが、全学的な対応が必要かもしれません。

また、本授業は大教室(411)のため、当初、勝手に途中退出したり、後方学生の私語が多く見受けられたため授業時間を通じてピンマイクで対応しました。そして、適宜、教室中を回りながら顔を見て質問したり、注意が複数に及んだ場合、即刻退室を命ずるなどした結果、かなり静かなクラスになったと思います。

残念なことにFD委員会の意見交換会に出席できませんでしたが、事務局からいただいた先生方のアンケートを拝見しました。その中で、パワーポイントを活用した教材については概ね好評をいただいたようですが、講義の内容が一部の学生を除いては、一般向けという印象を受けたとされるご指摘や、マイクの音量が小さかったというご意見もいただきました。改善できることは速やかに対応し、今後の指標にさせていただきたいと思います。

今回の公開授業では、私が担当している科目「心理学」を FD 委員の先生方に参観していただきました。私はこれまで FD の活動として、アクティブラーニングの講習等、様々な講習を受けてきましたが、他の先生に実際の講義運営をチェックして頂き、意見をいただくという経験は初めてで、今回の公開授業はとても興味のあるものでした。

これまで私が様々な大学で受け持たせていただいた授業の形式としては、教壇に立って授業をする講義形式のものと、学生に調査や実験を行わせ、結果報告やレポートをまとめさせる実習形式のものがありました。心理学は講義形式の授業になり、毎回 150 名程度の学生が受講しています。心理学の授業では、「人間の心と行動について、科学的な視点から理解すること」を目標としており、人間の記憶や思考、学習についてなど心理学全般について広く学んでもらっています。

心理学は名前のイメージとその内容の興味深さから、学生の学ぶ動機づけが比較的高い学問です。そこでこの授業では心理学を学ぶ動機づけを下げないために、「1. 心理学が身近で役立つ学問であると感じてもらい興味をもってもらうこと」、「2. 教壇から講師が一方的に授業をするのではなく、学生をこの講義に積極的に参加させること」の 2 点を心がけています。具体的な方法として、身近な学問であると感じてもらうために、毎回の授業で学ぶ内容について、学生の日常生活の中での身近な例や出来事を用いて説明しております。また、積極的な授業への参加を促すため、毎回の授業の中で重要になるトピックやキーワードについて、アンケートに答えさせる、ディスカッションをさせる、みんなの前で自分の意見を述べさせるという様々な機会を設けています。そして、授業を受動的に聞いているだけにならないように資料に空欄を設け、自分の手を動かし書かせるなどの作業も課しています。このように授業内の環境設定を行うことで、私語や居眠りなどの消極的な行動は減り、学生の授業への積極的な参加を促せたと考えます。さらに授業外では簡単な予習と復習レポートを課すことで、日常生活でも心理学について自分の頭で考える機会を設けております。この中で、日常生活の中での身近な例や出来事を用いて説明していることと、資料に空欄を設け学生に書かせていることは、FD 委員会による意見交換会でも高く評価していただきました。また、学生への注意など講義運営の助言もいただき、公開授業と意見交換会が、自分自身の授業運営について見直すとても良い経験となりました。

今回頂いた意見やアドバイスは来年度以降の授業改善に役立てていきたいと思っております。そして、授業内容を精練し授業での作業について様々な工夫を行っていくことが、より積極的な参加を促進し、学生の学ぶことへのさらなる動機づけにつながると考えます。



2015年11月19日(木)3限の公開授業で、私が担当した科目は「総合教養 C」(後期半期科目、自由選択科目、履修登録者数95名)である。以下、この授業の概要と公開授業時の授業内容等に触れた後、公開授業の所見・今後の課題を申し述べたい。

「総合教養 C」は、公務員試験・就職試験(一般常識)対策をメインとする科目であり、社会科学系政治・社会を講義範囲とする。授業計画で示したテーマは、公務員試験や就職試験で出題頻度の高いものを選定してある。また就職試験よりも相対的に難易度の高い公務員試験に説明の比重を置き、かつ授業の対象とする公務員試験は市役所・警察官・消防官レベルにしている。したがって、公務員試験のレベルに対応した一定の水準を要求する授業であり、そのことを初回授業時に受講学生にあらかじめ伝えてある。

1回の授業は、大きく3に区分して進められる。最初の20分程度は、前回授業の復習を試験形式で行い、学生に5~10分で解答させた後、10分前後の時間をかけて正解と解説を行う。つぎに授業テーマのレジюмеを配布し、レジюмеの空欄個所に入る重要な用語や説明文を板書して学生に記入させ、これらについて説明をする。これを2回ほどおこなうと残り15分程度となり、この日の授業で説明したことを最後に口頭で確認する。

公開授業時は第8回「地域紛争の諸問題」の授業であった。国際情勢には、国名・地名・団体名・人名などの多くの固有名詞を教える必要があるため、それらに関連付けながら試験の出題傾向やポイントを併せて説明した。国際問題には地理の知識も必要不可欠であるから、レジюмеに地図を載せて紛争場所の確認をおこなった。ほぼ毎回の授業で強調していることだが、中途半端な知識や考え方では公務員試験では通用しないことも併せて伝えた。

普段通りの授業でよいとうかがっていたので、公開授業のための準備もせず、また学生にも何も伝えていなかった。そのためかいつもの授業と変わらず、学生も静かに聞いていたように思う。

しかし問題も残されている。授業が公務員試験対策に特化すればするほど公務員試験関係の予備校の授業内容と変わらなくなってしまうので、なんらかの創意工夫が必要ではないかと考えているが、これについての対策案は現状では浮んでいない。今後の大きな課題としている。

最後に、このような機会を設けてくださったFD委員会と授業を参観してくださった先生方に厚くお礼申し上げます。



まずは、1年次後期の経営学科必修科目「経営情報概論Ⅱ」の公開授業に関して、さまざまなご助言をいただき、ありがとうございました。

「(経営)情報=コンピュータ・システム、コンピュータ・システム=理系、理系=難しい」という先入観のある文系学生の情報系科目へのモチベーション向上・維持は、長年取り組んできた課題です。講義用ノートの作成や講義でのテキストやスライドの活用においてこれまで留意してきたことは、4年制大学の編入試を受ける短大生への指導が長かったせいもあると思いますが、経営学や情報学の基礎・応用知識を学ぶだけでなく、いかに受講生の国語力(場合によっては英語力も)を向上させるかということです。これまで全ての担当科目で活字文献を使用し、国語の授業を多少意識しながら解説してきました。というのは、腰を据えた受験勉強を十分しないまま入学する学生が一定数在籍する環境での講義が大部分だったこともあって、行間を含めた内容を詳細に解説しないと相応の理解度や満足度を維持できないことを実感してきたからです。さらに1年生の場合は、高校までほとんど経験しなかった90分授業で集中力を持続できるような講義をいかに組み立てるかも重要になると思います。その組み立てに十分成功しているとは断言できませんが、絶えず試行錯誤しています。さらに、科目特性上、技術的用語が必然的に多くなり解説が難解になりがちなところをいかに平易に説明するかについても同様です。

講義において最も改善すべき点は、時間管理ではないかと思います。配布資料が多すぎたり脱線話が長すぎたりして時間内に収まらなかったり、時間が余ると予想し準備した資料を使う時間がなくなって数週後に回したりすることがあるので、この点については工夫が必要かと思います。また、過剰サービスかもしれませんが、教材として大変有用な(しかし割高感あり)指定テキストの内容をスクリーンに映しています。必要に応じてスクリーンに表示しながら講義を進め、試験対策を含めてテキストの有用性をアピールしていますが、購入する受講生はなかなか増えないように見えます。何か妙案があればと思います。

授業環境については、全般的に比較的静かに受講していると思いますが、私語について全く注意する必要がない日もあれば、注意しても少しざわつく日もあります。その違いをいまだに把握できていないので、何かヒントを得ることができればと思います。





## 公開授業 意見交換会報告

2015年12月2日（水）に第5回FD委員会・公開授業意見交換会が開催された。参加者は公開授業担当教員、FD委員の計16名であった。

まず担当教員が授業の進め方やアンケート結果を振り返り、以下のような感想を述べた。

- ・2～4年生が受講しており、幅広い学生に対応するため、ベーシックなテキストをもとにした丁寧な解説を心がけている。
- ・タブレット端末を活用し、パワーポイントに赤線等を記入しながら教室内を歩き回って講義している。
- ・新たな事柄を説明する際は（学生のプライドを傷つけないように配慮しながら）中学レベル、高校レベル、実践的な内容といった三段階に分けて説明している。段階的に説明することで、学生にとっては「どこで理解できなくなったのか」が分かり、またその部分を理解すればより実践的で難易度の高い内容を理解できるようになるという自信につながる。
- ・前回の復習用に自作の解説ビデオを使用しているが、教室内で板書をするよりも集中して見ている様子である。
- ・学生には関心を持って取り組んでもらえるよう、まず、その日の講義テーマについて考える時間を設けている。
- ・ディスカッションのための時間や休憩時間を取ってメリハリのある進行を意識しているが、ディスカッションタイムでも講義に関係のない事柄を話す学生が多く、指導の仕方を模索中である。
- ・より多くの学生に満足感を得てもらえるよう、学生にノートを取らせることを意識し小テストを実施しているが、学生は「提出しなければいけない」という意識が働くようで、効果があると思われる。
- ・スライドと書画カメラを併用しており、書画ではテキストを投影して、テキストのどの部分を解説しているのかを示すようにしている。

続いて、参観した教員から講義の進め方についての意見・感想として、以下のような意見が出た。

- ・スライドに写真や図を多く使っていることは、学生にとっても印象に残りやすいと思う。
- ・副専攻の地域探求コースは履修者数が多く、内容には関心がないものの履修しているような学生に対し、どのように授業を展開すればよいのか、運用が難しい。
- ・私語の無い静謐な環境とするには、受講者数と教室の規模とのバランスも重要だと考える。
- ・パワーポイントを使用すると、照明を暗くするために眠ってしまう学生がいる。画像を見せることは有効だが、それ以外は板書をしている。
- ・パワーポイントでの講義から板書に変えたところ、授業の進度が遅くなった。スライドにいかにも多くの情報を詰め込んでしまっていたかが分かった。
- ・学生に興味を持たせるため、授業の初めや半ばで動画を見せているが、授業内容に上手く関連のある動画が見つからないこともあり、難しい。
- ・テキストを指定しても、購入しないままの学生が多くいるようだ。



小出先生による公開授業の様子

- ・「〇ページを開いて」といった指示に対する反応が遅く、すぐにそのページを開けない。該当ページを書画カメラ等で示すこともできるが、社会人になったときのことを考えるとそれが最善策とは思えない。
- ・テキストについては、口頭のみで重要箇所を伝えたり、テスト範囲に指定したりすることで、学生に準備させている。



明尾先生による公開授業の様子



小林先生による公開授業の様子

意見交換の後、公開授業ワーキングリーダー・孫飛舟教授より「参観した先生方の授業では、教室設備に合わせて授業方法を模索し、改善の努力をされていることが印象的だった。しかし先生方の努力に対して、学生にどれだけの効果があったか、考えさせられる。学生を社会に送り出すという視点に立って考えたときに、どのような対応が望ましいのかは、検討する必要がある。次年度以降も、GET コース科目や副専攻科目などを中心に参観させていただき参考としたい」とのコメントがなされた。

今回の意見交換会では、特に板書・パワーポイント・動画等の授業への活用について意見交換が行われた。公開授業を担当された教員にとっても、参観された教員にとっても、講義の進め方を見直す良い機会となっていれば幸いである。



## <FD 活動報告>

### 就業力育成支援プロジェクト報告会 開催される

2015年11月4日（水）ならびに11月18日（水）、就業力育成支援プロジェクトとFD委員会の共催により「就業力育成支援プロジェクト」報告会が開催された。

本学では、平成23年度から「就業力育成支援プロジェクト」を開始し、その後、順次対象とする学年を拡大して、平成26年度に完成年次を迎えている。

報告会では、4年間の取り組みを振り返り、導入前の状況から導入計画の策定、実施概要までをそれぞれの目的とともに報告され、また4年間の実施状況を踏まえて今後はどのような取り組みが期待されているかについても述べられた。

当日は多数の教職員が出席し、本学における就業力育成支援の取り組みについて、広く認識を共有できたのではないだろうか。

## 第 25 回 教育サロン in 関西 参加報告

FD 委員／経済学部 経済学科 助教 中野浩司

わたしは、株式会社ラーニングバリューが主催者として、2015 年 5 月 23 日に開催した「第 25 回教育サロン in 関西」に参加しました。この教育サロンは、教員だけではなく職員、学生、大学関係者ではない方も含めて、大学教育について話し合う場として全国で実施されています。今回は本学の U・メディアセンター GATEWAY で開かれました。参加者は全部で 40 名であり、本学の教員は私を含めて 7 名参加しました。今回の催しでは、優れた講義技法を学ぶよりも、講義に対する姿勢や考え方を話し合うことに主眼が置かれていました。



はじめに開会の挨拶が行われました。続いて「あなたの学習スタイル」という実習に参加しました。この実習では自分がどのように物事を学ぶ特徴があるのか確認しました。次に、学習スタイルができるだけ重ならないようにグループをつくり「記者会見」という実習に参加しました。この実習では一人ひとりのグループメンバーに対して、他のグループメンバーが質問することで、お互いのことを理解することができました。なお、「あなたの学習スタイル」と「記者会見」は、ゼミナール IA

の学外研修プログラムに参加できなかった学生のために開かれる「欠席者対応プログラム」でも行われています。続いて、本学の伊東眞一先生が話題提供者となり、ご自身の授業スタイルについて丁寧に説明されました。そして伊東先生の話の踏まえてグループ討議・振り返りを行った後に、グループで話し合ったことを全体で共有しました。最後にアンケートに答えて、閉会の挨拶をもって今回の催しが終了しました。

わたしは今回の教育サロンに参加して二つのことを学びました。一つ目は自由な雰囲気のもとで意見交換することの重要性です。今回の催しでは自分の考えを素直に伝えられる環境が整っていました。これにより参加者が安心して発言することができて、深い議論も行われました。二つ目は自分とは異なる立場の人の考えを知ることの重要性です。今回の催しには様々な大学の教員が参加していました。また、教員だけではなく、職員、学生、大学関係者ではない方も参加していました。これにより多様な意見が生まれて、新たな視点から大学教育を捉え直すことができました。今回の教育サロンで学んだことを本学での FD 活動に活かしていければと思っています。今後とも、みなさまからのご協力のほど、よろしくお願い致します。



写真提供：(株) ラーニングバリュー



大阪商業大学 FDニュースレター 第16号

発行日：2016年3月10日

発行：大阪商業大学FD委員会

〒577-8505 東大阪市御厨栄町 4-1-10

Tel 06-6781-8816 Fax 06-6781-8438